

火山災害(融雪泥流)における避難

山に雪がある時期に噴火したとき、噴火の熱で火口周辺の雪が急速に溶けて大量の水となり、溪流沿いの土砂や樹木を巻き込んで一気に流れ下る現象が「融雪による火山泥流」です。

この火山泥流の災害予想区域の外側にある避難所(赤丸●)への避難を想定しておきましょう。

※避難所番号は、「指定緊急避難場所・指定避難所一覧」の番号に対応しています。
※A~Dは、要配慮者を受け入れる「福祉避難所」として拠点となる避難所です。

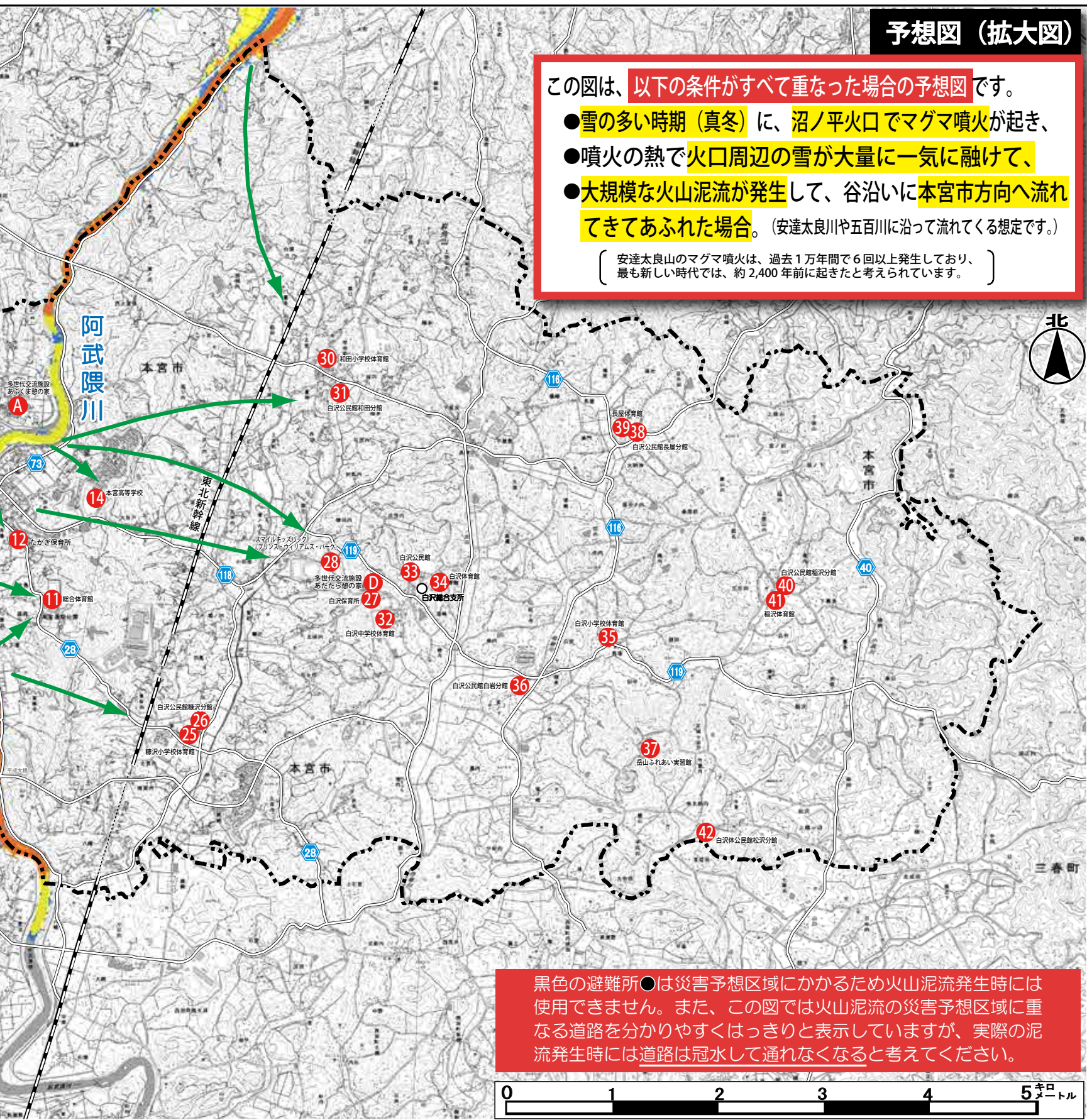
火山噴火時に気象庁が発表する主な情報

○噴火警報

噴火に伴って、生命に危険を及ぼす火山現象の発生が予想される場合やその危険が及ぶ範囲の拡大が予想される場合に、「警戒が必要な範囲(生命に危険を及ぼす範囲)」を明示して発表されます。安達太良山のような噴火警戒レベルを運用している火山では、噴火警戒レベルを付して発表されます。

○噴火予報

火山活動の状況が静穏である場合、あるいは噴火警報には及ばない程度ではあるが、火山活動の状況等を周知する必要があると認められる場合に発表されます。



予想図(拡大図)

この図は、以下の条件がすべて重なった場合の予想図です。

- 雪の多い時期(真冬)に、沼ノ平火口でマグマ噴火が起き、
- 噴火の熱で火口周辺の雪が大量に一気に融けて、
- 大規模な火山泥流が発生して、谷沿いに本宮市方向へ流れてきてあふれた場合。(安達太良川や五百川に沿って流れてくる想定です。)

〔安達太良山のマグマ噴火は、過去1万年間で6回以上発生しており、最も新しい時代では、約2,400年前に起きたと考えられています。〕

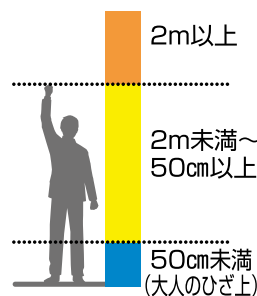
黒色の避難所●は災害予想区域にかかるため火山泥流発生時には使用できません。また、この図では火山泥流の災害予想区域に重なる道路を分かりやすくはっきりと表示していますが、実際の泥流発生時には道路は冠水して通れなくなると考えてください。

火山灰が降ったときの注意

- 火山灰は岩石が砕けた粒です。目や肺に入ると健康を害することがありますので、ゴーグルやマスク等で身体を守りましょう。家の中に火山灰を持ち込まないように、カッパや帽子、長袖、長スポンも有効です。
- 積もった火山灰は側溝や下水、川などに流さず、集めて袋詰めしておきましょう。(噴火後に市から廃棄方法が指定されます。)
- 火山灰が道路に積もると、自転車や自動車のブレーキが効きにくくなります。火山灰が5mmくらい積もった場合、雨が降るとぬかるんで自動車がまっすぐ走りにくくなります。また、火山灰が空中に巻き上げられると見通しが悪くなり事故が起きやすくなりますので、交通事故に気をつけましょう。
- 火山灰への対応に詳しい情報の入手先
(降灰への備え、事前の準備、事後の対応など)
独立行政法人 防災科学技術研究所「火山情報WEB」
<http://vivaweb2.bosai.go.jp/ash/>

記号と色の意味

融雪による火山泥流の浸水高
(目安となる氾濫水深)



- 主な指定避難所(番号)
- 使用できない避難所(火山泥流発生時)



泥流(目安) 1時間以内
(到達時間の目安)